



















びち!

はっ!お!

びち!



あ、
うん、
うん、

うん、
うん、
うん、

うん、

うん、!





ちゅ!

ちゅ!

ひゅ

やあ

やあ

やあ



うあ
うあ
ああ

ます
た

とん

とん
とん





びびり!

ほっほ!

ばち!



ずん、

ずん!!

あ、
うん、
うん、

あ、
うん!!
うん!!





ちゅ!

ちゅ!

ひゅ

やあ

やあ

やあ



うあうああ

また

とん

とん



「がはっ、あっ、あっ、ぐうっ、ふっ、げっ……!」

「おいおい、嫌なフリすんじやねえよ。しっかり濡れてやがるじゃねえか」

「うそ……こんなの、うそ、うそ、うそ、うそ、うそ……ッ!」

「またあじやないのに……こんなの、嫌なのに……!」

「ちゆうじやき……うも、うも……やめひえ……しょうですから、おねがいします……っ」

ずん、

ずん!

あ、
うも、
うも、

うも!
あん、
うも、



「あ、あ、あ、あ、あ、あ……っ、やめひえくらひやい……こわれひやろ……」

「やらっ、あん、あんっ、やんっ、あんっ、ああ、ああああ、やらやらやらやら……っ」

「イキたく……っ、おっ、おっ、おっ、おっ、おっ……っ、これいじよお……おねがい、しまひや……」

「さすが愛に尽くす女は強情だな。ひひっ、だがあと一歩、このクスリで最後だ！」

「やら……っ」

ひゅっ
やあ、

やらあ！
やらあ！

ぐちゅ！

ぐちゅ！

「あ、あああああああああああああああああああああつっつっつ……！」

「はい！姫女頂きました！。てめえのマスターの前にこの俺が立派なおナホールに仕立ててやるよ」

「……か……あ……」

「……ま……じ……？」

「からだが……あつい……さっきのまされた、へんなくすりの……」

「おれい！」

「ほっお！」

「ぶち！」





ずん

ずん!

あ、
うも、
ぞん

うも!
あん、
ぞん

「がはっ、あっ、あっ、ぐうっ、ふっ、ぞん……!」
「おいおい、嫌なフリすんじやねえよ。しっかり濡れてやがるじゃねえか」
「うそ……こんなの、うそ、うそ、うそ、うそ、うそ……っ!」
「(またたあじゃないのに……こんなの、嫌なのに……!)」
「ちゆうじやき……うも、うも……やめひえ……しょうですから、おねがいします……っ」



「あ、あ、あ、あ、あ……っ、やめひえくらひやい……こわれひやろ……」

「やらっ、あん、あんっ、やんっ、あんっ、ああ、ああああ、やらやらやらやら……っ！」

「イキたく……っ、おもしろっ、ひびだぐない……
わたくひの、あいを……っ、おわさないで……っ、これいじよお……おねがい、しまひや……」

「さすが愛に尽くす女は強情だな。ひひっ、だがあと一歩、このクスリで最後だ！」

「やらやらやらやらやらやらやらやらやらやらああああああああああああ……っ！」

ひゅ、
やらあ、

やらあ、

やらあ、
あ、

ちゅ!

ちゅ!

